

地域の違いと地図の違い

1. 地域の違いと地図の違い

- ・一次資料を手に入れる/作成する
 - それらの「資料」にはどのような意味があるのか？どう扱えば良いのか？
 - 他と「比較」する（全てを並べて比べてみる）
 - その際には、他分野の勉強が必要になるかもしれない（「組み合わせ」せる）
 - 2018 年には、「日本地図学会定期大会」でも報告
- ・スケジュールの面から
 - 2015 年 04 月 千代田区立日比谷図書文化館で、火災保険特殊地図の「原本」を「発見」
 - チャンスはどうつかまえるか？自分でチャンスをつかまえることができるか？
 - どのようにつなげるか？どこでつなげることができるか？
 - 2015 年 09 月～2016 年 02 月 著作権者からの許可，デジタル化作業
 - 2016 年 04 月 平成 28 年熊本地震
 - 2016 年 07 月 論文（文献 [1]）を投稿→→2017 年 02 月論文発行
- ・自分の研究の成果を他の人が使って研究してくれるかもしれない
 - 研究成果を広く公表（知ってもらい），一般の方々にもお知らせ（新聞での報道も）
 - 2017 年 02 月 日比谷図書文化館での講演（出版後の 2019 年 02 月と 11 月にも講演）
 - 2017 年 03 月 台湾中央研究院台湾史研究所での講演
 - 2017 年 05 月 出版社への企画持ち込み
 - 2018 年 03 月～07 月 復刻出版→→→文献 [2]
- ・多量の史料/資料を収集するという研究スタイル，もしくは強みはどこか？
 - 辻原万規彦，藤岡里圭編集：『編集復刻版 昭和 10 年全国商店街調査資料』，第 1～13 巻＋別巻，不二出版，2007. 7～2008. 5.
 - 今泉裕美子監修，辻原万規彦編集：南洋庁公報，全 25 巻＋別巻 2，ゆまに書房，2009. 5～（実は未だに完結しておらず）
 - 時間がかかる，面倒ください
 - 独創的な研究とは言い難い（誰でもできそう）
 - あまり評価されない
 - ←取り組む人は少ない←←でも誰もしないとそれはそれで困る

- ・台湾とのデータ共有（台湾へのデータ提供）の意味
 - 台湾はかつての植民地（台湾から様々なものを吸い上げた）
 - 実は、現在の研究でもその傾向は強い（台湾から提供してもらう一方）
 - 日本にあるデータを提供できた初めての機会
 - 台湾の理解（少しでも、ちょっとでも、相互に）

- ・歴史的な視点からの研究はどこに意味を持つのであろうか？
 - 枠組み（全体的な構成やしくみ）を理解するには、歴史的な視野は一つの「解」では？
 - 歴史的な観点で、問題が「解け」ないか？

2. 関連する文献

以下の文献も参照。辻原作成のホームページ（辻原と研究室の業績リスト）

（<https://www.pu-kumamoto.ac.jp/~m-tsuji/gyouyear.html>）にリンクあり。もしくは、ダウンロード可能。

- [1] 辻原万規彦，角哲，青井哲人：日比谷図書文化館所蔵の樺太・台湾・旭川の火災保険特殊地図，日本建築学会技術報告集，第 53 号，pp. 303～308，2017. 2
- [2] 「研究活動紹介 国会図書館で研究成果が利用されています」（熊本県立大学広報誌『春秋彩』Vo. 50（2019 Spring）p. 10 所収）（大学のホームページからダウンロード可）

3. 参考 URL

- [1] 千代田区立日比谷図書文化館
<https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/>
- [2] 中央研究院 臺灣史研究所（台湾）
<http://www.ith.sinica.edu.tw/index.php>
- [3] 中央研究院 人文社會科學研究中心 地理資訊科學研究專題中心（台湾）
<http://gis.rchss.sinica.edu.tw>
- [4] 戦前期外地火災保険特殊地図集成（柏書房のホームページより）
<http://www.kashiwashobo.co.jp/search/s11564.html>